

### 3. 第2次アンケート調査の概要

#### (1) 調査の目的

青森県内の外貿コンテナ輸送を利用している企業を対象に、青森港の輸出入物流の現状や可能性や青森港コンテナ施設に対する意向、意見をさぐり、今後の青森港における外貿定期コンテナ航路誘致・開設の基礎的な資料に資することを目的としている。

#### (2) 調査の対象

調査の対象は青森県を中心に一部秋田県を含む貿易関連企業 2,452 社への青森港国際貨物戦略検討アンケート調査(第1次)で国際物流に関係のある企業 430 社を抽出した。

#### (3) 調査方法

一定の質問と回答欄で構成された調査票(別紙)を対象企業にあらかじめ、郵送し、対象企業担当者が記入し投函する、郵送メール法に準じて行なった。

- ・ 調査エリア : 青森県等
- ・ 調査対象 : 国際物流と関係のある企業 430 社
- ・ 調査法 : メール法、あらかじめサンプリングされた対象企業に調査票・返信封筒を配布し、青森市港湾河川課宛てに投函回収
- ・ レターヘッド : 青森港国際化推進協議会  
青森商工会議所

#### (4) 調査票の回収状況

調査票 430 票を配布したうち、回収票は 291 票であり、このうち実際の分析ができた有効回収票は 260 票であり、有効回収率は 60.6%である。郵送法としては高い回収率であり、これは県内貿易関連企業の青森港の国際化への関心の高いことを示している。

配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
430	291	67.7%	260	60.6%

#### (5) 調査スケジュール

調査票配布 平成 14 年 4 月 18 日～5 月 10 日

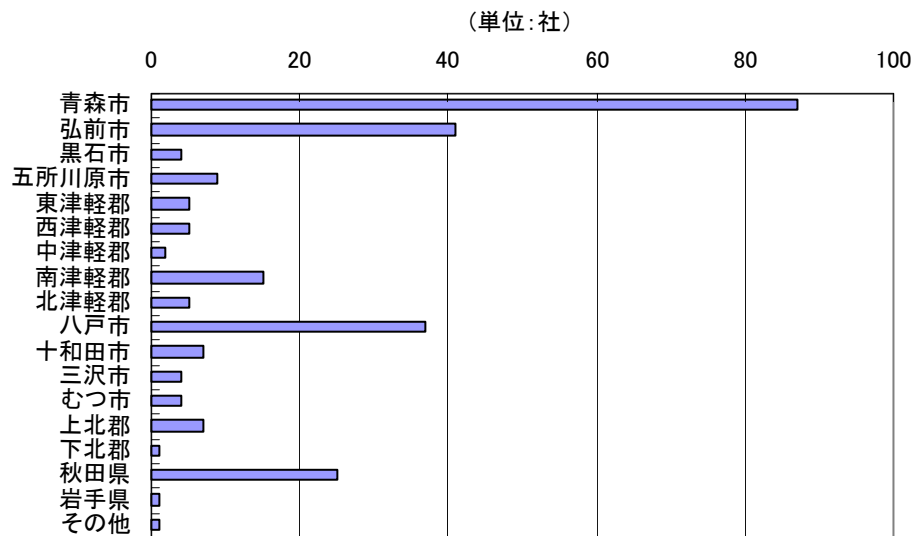
調査票回収点検 平成 14 年 5 月 13 日～5 月 22 日

#### 4. 第2次アンケート調査の結果分析

##### (1) 回答企業の所在地

回答企業 260 社の所在地を市郡別に見ると青森市が最も多く 87 社(33.5%)、次いで弘前市 41 社(15.8%)、南津軽郡 15 社(5.8%)、五所川原市 9 社(3.5%) 等である。青森港の背後圏<sup>注)</sup> は 215 社(82.7%) である。

回答企業の所在地



	企業数	%	背後圏	%
青森市	87	33.5%	87	33.5%
弘前市	41	15.8%	41	15.8%
黒石市	4	1.5%	4	1.5%
五所川原市	9	3.5%	9	3.5%
東津軽郡	5	1.9%	5	1.9%
西津軽郡	5	1.9%	5	1.9%
中津軽郡	2	0.8%	2	0.8%
南津軽郡	15	5.8%	15	5.8%
北津軽郡	5	1.9%	5	1.9%
八戸市	37	14.2%	18	6.9%
十和田市	7	2.7%	3	1.2%
三沢市	4	1.5%	4	1.5%
むつ市	4	1.5%	2	0.8%
上北郡	7	2.7%	2	0.8%
下北郡	1	0.4%	0	0.0%
三戸郡	0	0.0%	0	0.0%
小計	233	89.6%	202	77.7%
秋田県	25	9.6%	11	4.2%
岩手県	1	0.4%	1	0.4%
その他	1	0.4%	1	0.4%
合計	260	100.0%	215	82.7%

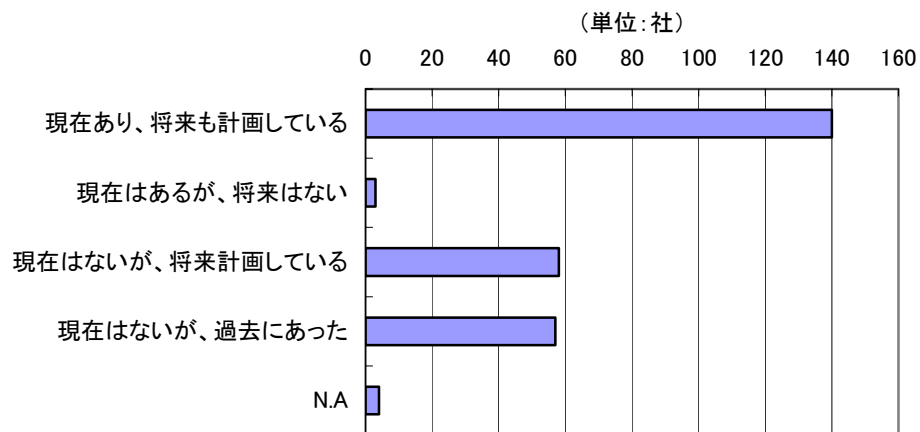
注) 青森港の背後圏企業とは、津軽地域に立地する企業に、津軽地域以外の地域に立地する企業のうち第1次アンケート調査において青森港を「利用したい」または「コストが合えば利用したい」と回答した企業を加えたものである。

(2) 海外との取引

海外との取引(輸入、輸出)が「現在あり、将来も計画している」企業は140社(53.8%)、「現在はあるが、将来はない」企業3社(1.2%)、「現在はないが、将来計画している」企業58社(22.3%)、「現在はないが、過去にあった」企業57社(21.9%)である。

将来計画している企業は198(140+58)社(76.2%)あり、このうち青森県の背後圏は159(108+51)社(61.2%)あり、これらの企業のニーズに対応した青森港の国際化が必要となる。

海外との取扱(輸入、輸出)

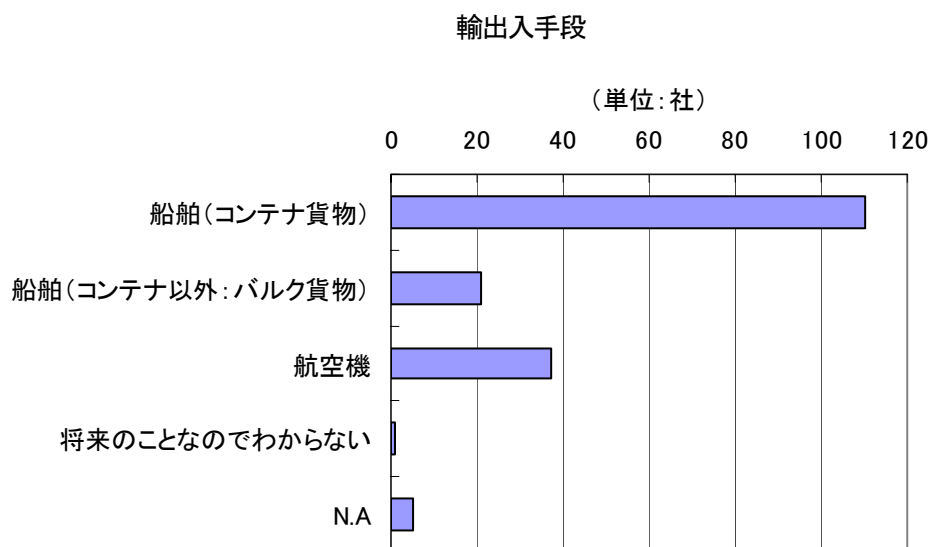


	企業数	%	背後圏	%
1 現在あり、将来も計画している	140	53.8%	108	41.5%
2 現在はあるが、将来はない	3	1.2%	2	0.8%
3 現在はないが、将来計画している	58	22.3%	51	19.6%
4 現在はないが、過去にあった	55	21.2%	50	19.2%
N.A.	4	1.5%	4	1.5%
計	260	100.0%	215	82.7%

### (3) 輸出入手段

海外との取引で「現在あり、将来も計画している」及び「現在はあるが将来はない」と回答した企業 143 社を対象にした輸出入手段は「船舶(コンテナ貨物)」110 社(76.9%)、「船舶(バルク貨物)」21 社(14.7%)、「航空機」37 社(25.9%)などである。

船舶によるコンテナ貨物が約8割を占めており、青森港の背後圏企業の船舶によるコンテナ貨物はそのうち約74%を占めている。



		企業数	%	背後圏	%
1	船舶(コンテナ貨物)	110	76.9%	81	56.6%
2	船舶(コンテナ以外:バルク貨物)	21	14.7%	13	9.1%
3	航空機	37	25.9%	30	21.0%
4	将来のことなのでわからない	2	1.4%	1	0.7%
	N.A	4	2.8%	5	3.5%
	計	143	100.0%	109	76.2%

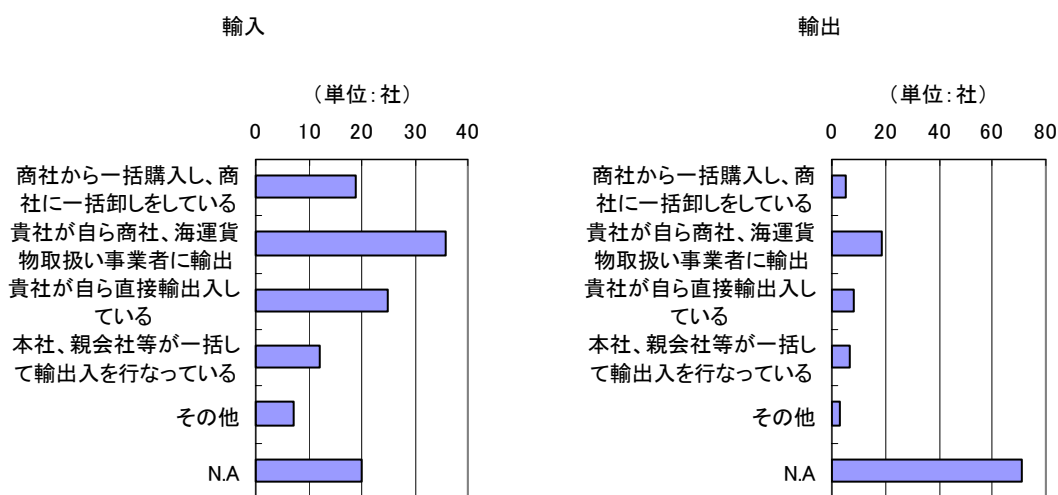
複数回答

#### (4) 輸出入の方法

輸出入手段で「船舶(コンテナ貨物)」と回答した企業 110 社を対象とした輸出入の方法は「商社から一括購入し、商社に一括卸しをしている」が輸入 19 社(17.3%)、輸出 5 社(4.5%)、「貴社が自ら商社、海運貨物取扱い事業者に輸出入業務を依頼している」が輸入 36 社(32.7%)、輸出 19 社(17.3%)、「貴社が自ら直接輸出入している」が輸入 25 社(22.7%)、輸出 8 社(7.3%)、「本社、親会社等が一括して輸出入を行なっている」が輸入 12 社(10.9%)、輸出 7 社(6.4%)である。

全体では、輸出入とも「貴社が自ら商社、海運貨物取扱い事業者に輸出入業務を依頼している」が最も多く、次いで「貴社が自ら直接輸出入している」の順であるが、青森港の背後圏では、輸入において「貴社が自ら直接輸出入している」が多くなっている。

#### 輸出入の方法



(単位:社)

	輸入				輸出			
		%	背後圏	%		%	背後圏	%
1 商社から一括購入し、商社に一括卸しをしている	19	17.3%	14	12.7%	5	4.5%	5	4.5%
2 貴社が自ら商社、海運貨物取扱い事業者に輸出入業務を依頼している	36	32.7%	19	17.3%	19	17.3%	14	12.7%
3 貴社が自ら直接輸出入している	25	22.7%	20	18.2%	8	7.3%	6	5.5%
4 本社、親会社等が一括して輸出入を行なっている	12	10.9%	5	4.5%	7	6.4%	3	2.7%
5 その他	7	6.4%	6	5.5%	3	2.7%	2	1.8%
N.A	20	18.2%	17	15.5%	71	64.5%	51	46.4%
計	110	100.0%	81	73.6%	110	100.0%	81	73.6%

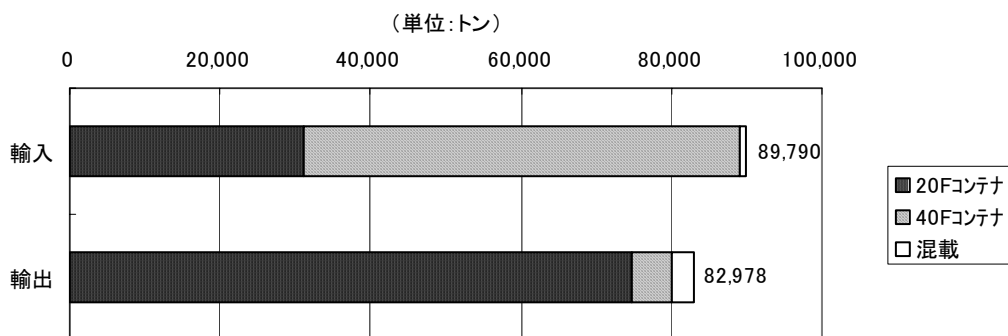
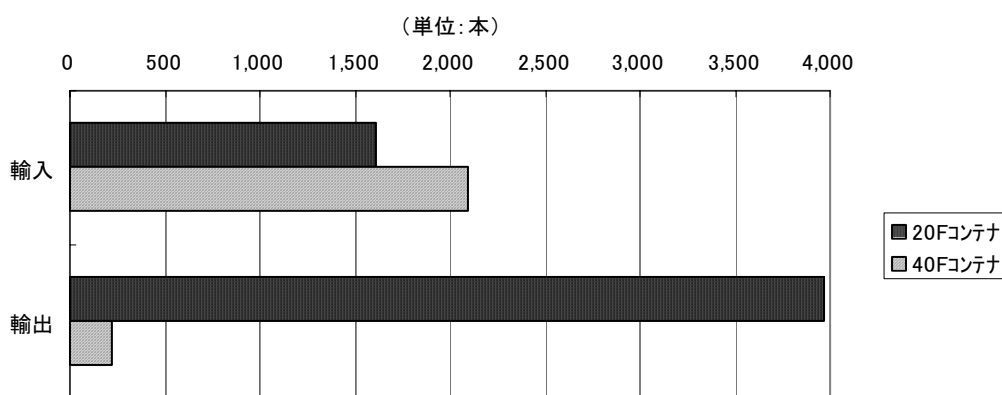
複数回答

(5) 輸出入コンテナ貨物量

輸出入手段で「船舶（コンテナ貨物）」と回答した110社を対象とした輸出入コンテナ貨物の年間取扱量の輸入は78社が回答し、コンテナ貨物は5,809TEU(89,107トン)、混載683トンであり、輸出は22社が回答し、コンテナ貨物は4,408TEU(79,937トン)、混載3,041トンであった。

このうち青森港の背後圏の企業は輸入2,877TEU(44,269トン)、混載貨物595トン、輸出497TEU(6,183トン)、混載貨物539トンである。

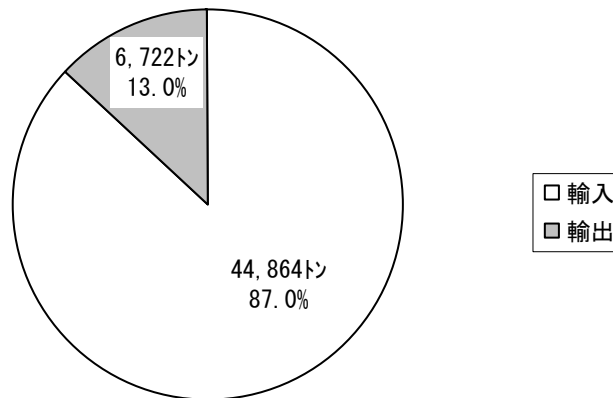
輸出入コンテナ貨物量



		輸入			輸出		
		20Fコンテナ	40Fコンテナ	混載	20Fコンテナ	40Fコンテナ	混載
全回答	本	1,613	2,098		3,968	220	
	トン	31,231	57,876	683	74,669	5,268	3,041
県内企業	本	1,334	1,776		3,911	170	
	トン	27,015	53,150	668	73,641	3,468	2,661
青森港背後圏企業	本	593	1,142		57	220	
	トン	11,897	32,372	595	915	5,268	539

青森県背後圏企業の輸出・輸入比率を見ると、輸入が44,864トン(87.0%)であるのに対し、輸出は6,722トン(13.0%)であり、アンケート調査結果では輸入超過の傾向となっており、輸出企業に対するポートセールスが重要であることを示している。

青森港背後圏企業の輸出・輸入比率

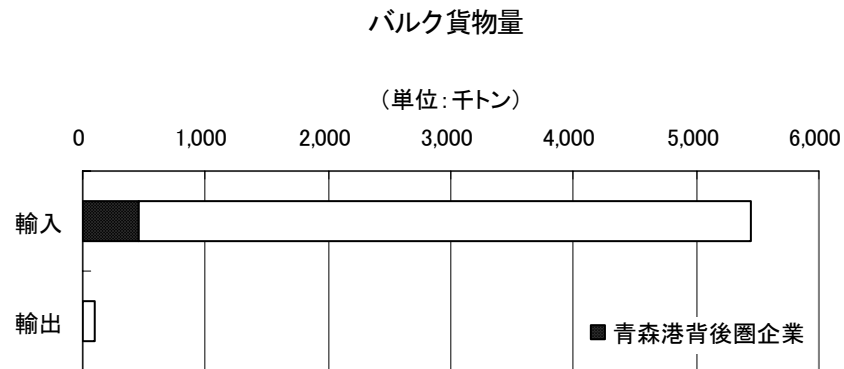


なお、平成13年度の青森港における貨物取扱実績は輸入754千トン、輸出81千トンであるが、この中で輸出の主要取扱品目である鉄鋼くず、中古車や、輸入の主要取扱品目である鉱石、原木、大豆については、今回のアンケート調査ではコンテナ貨物としての回答はないが、これらの品目については、全国的に見てもコンテナによる輸出入が行われている例は少なくなく、特に原木については、製材などへの海外での1次加工が増加、年々コンテナ化が進展しており、将来的な潜在貨物量は、現時点での在荷量を大きく上回るものと考えられる。

(6) バルク貨物量

輸出入手段で「船舶(バルク貨物)」と回答した 21 社を対象としたバルク貨物の年間取扱量は輸入 5,445 千トン、輸出 90 千トン、計 5,535 千トンである。

このうち青森港背後圏企業のバルク貨物の年間取扱量は輸入 459 千トン、輸出 3 千トン、計 462 千トンである。



	回答企業	青森県内企業	青森港背後圏企業
輸入	5,444,746	5,133,528	459,308
輸出	89,860	89,860	3,158
計	5,534,613	5,223,395	462,473